税金は希望のバトン

岐阜市立岐阜中央中学校３年　　杉村　蓮里

「無償の教科書をもらう子どもたち」という白黒写真、社会の調べ学習をしている中で見つけた。先生から教科書を手渡されて嬉しそうな男の子。後ろにならぶ女の子もじっと教卓の上に積まれた教科書を見つめている。一九六七年の古い写真だが、その光景にはなじみがある。令和のこの時代も毎年四月新年度スタート時には同じ光景が見られるからだ。しかし教科書をいただくときの中学生の表情はどうだろう。当たり前のように受け取っているではないか。教科書無償配布は五十年ほど続いている。もし個人で教科書を買わなくてはいけなかったら、その半世紀の間に平等に教育が受けられなかったこどもたちはどれほどいただろうと思う。教科書は大人が納める税金でまかなわれていることを知ったのは、教科書の裏に小さく書かれた、「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」という文章だ。教科書無償配布は、差別をなくし貧困問題に取り組む第一歩にもなったと思う。こども一人一人を大切にするための税金なのだと思った。無償の教科書はとても有難い。感謝の気持ちをもって大切に教科書を使いたいと思う。

小学六年生の時、コロナ感染予防のため緊急事態宣言が出され突然休校になった。卒業式目前だった。そしてしばらく休校は続き、中学校の入学式は六月になった。夢を叶える希望に満ちた中学校生活スタートのはずだったが不安に包まれてしまった。そんな中、岐阜市では、市内の小中学校と特別支援学校の生徒全員にタブレットを配布してくださった。高価なものを一人一台、端末の数は市内で約三万二千台だったと知って驚いた。待たずして、すぐ用意してくださった。税金のおかげで私たちに希望の光が差した。教科書が初めて無償配布された時の子どもたちと同じ気持ちだと思う。子ども一人に一台タブレットを個人で準備しなくてはならなかったら、かなりの負担になったことだろう。タブレットのおかげでコロナ感染が拡大した場合も家に持ち帰りオンライン学習に活用し、映像によって先生や友達に会うことができる。普段の授業や学校生活もより充実した。学びを保つことができるのは、すぐにタブレットを準備してくださった行政の方々、税金のおかげだと実感した。

白黒写真のこどもたちは大人になって税金を納め、現在のこどもたちを支えている。そして支えられて私たちは勉強に励み成長していく。次は私たちが大人になって未来の社会を作る。税金は希望のバトンだ。私たちが嬉しそうにタブレットを受け取っている写真も将来、社会科資料集に掲載されることだろう。